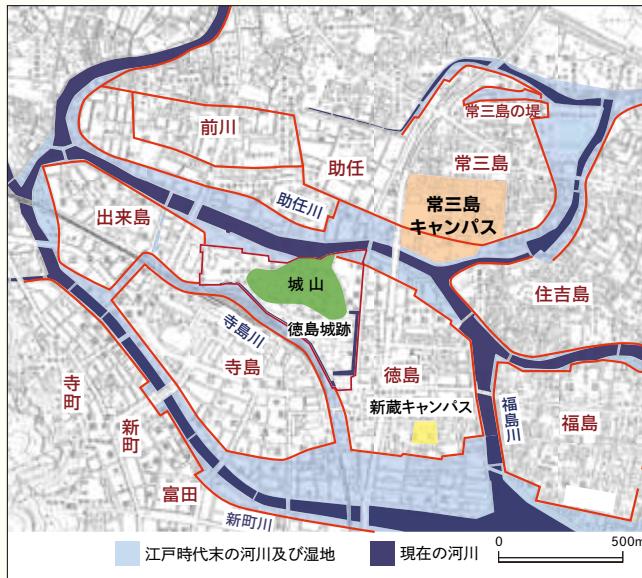


徳島城下町は、豊臣秀吉による四国平定後の天正13年(1585)、阿波国に入部した蜂須賀家政によって、吉野川河口付近のデルタ地帯を埋め立てて、建設が進められました。城下町の中核となる城山の東側に位置する6島(徳島・寺島・福島・住吉島・常三島・出来島)には武家屋敷地が配置されました。その中の一つ、「常三島」に形成されたのが、常三島遺跡です。常三島キャンパスでの発掘調査は、1992年の工学部実習棟地点に始まり、これまで20次以上にわたって実施され、絵図や文字記録に残された中・下級武家屋敷跡が確認されています。とりわけ、武家屋敷境を表す2条の溝、徳島藩水軍の拠点「安宅」の舟入状遺構、呪的な性格を帯びた青銅製品の埋納遺構の発見は注目されます。また今日、徳島城下町遺跡を代表する文化財に数えられる、しめなわ文茶碗の発見の契機となったのも、常三島遺跡の発掘調査です。



常三島キャンパスと周辺の地図

徳島藩は、武家屋敷地の把握・管理などを目的として、多くの絵図を作りました。これら絵図の中には、地割だけでなく、屋敷主名や屋敷地面積も記したものもあり、現在の地図と対比させることで、発掘地点が誰の屋敷地にあたるのか、事前に把握することができます。



御山下分絵図(個人蔵、安政年間)

(徳島市立徳島城博物館 2001『徳島城下とその周辺』より)

## そのほかの徳大構内遺跡

Sites

大学事務局が所在する新蔵キャンパス、医学部・歯学部・薬学部・病院などが所在する蔵本キャンパスもまた、遺跡の上に立地しています。

**新蔵遺跡** 新蔵キャンパスの位置する徳島地区は、城郭・御殿の西側に接し、家老・中老邸宅の集中する地区でした。日亜会館地点の発掘調査では、上級武士たちの生活を物語る豊かな資料が数多く見つかりました。

**庄・蔵本遺跡** 蔵本キャンパスは、縄文時代晚期から近世の遺跡の上に立地しています。特に弥生時代前期の畑・水田・大溝・水路・墓地などは、初期農耕集落の様子を今に伝えています。

詳しくはこちらから



# 常三島遺跡

JOSANJIMA Site

## — 近世徳島藩の中・下級武家屋敷跡 —



17世紀の石組み遺構 (第20次調査地点)  
生活用水を利用するための施設と考えられる。

国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室

〒770-8503 徳島県徳島市蔵本町 2-50-1

TEL・FAX 088-633-7236

ホームページ : <http://tokudaimaibun.jp>

# 常三島遺跡によるこそ

—ここまで分かった近世武家屋敷の様子—

青銅製品埋納遺構（幕末）

建物跡の隅付近で見つかった。地鎮や家内安全を祈願したものか。

屋敷境溝（18世紀後半～幕末）

屋敷地の境界に掘られた2条の溝。大水時の排水目的で設けられたとみられる。

火葬墓（17世紀前半）

屋敷地内で見つかった成年男性の墓。墓地には埋葬できない事情があったのか。

石列（17世紀中頃～18世紀前半）

絵図に描かれた常三島南辺の石垣にあたり、当時、これより南は助任川であった。

道路遺構（幕末）

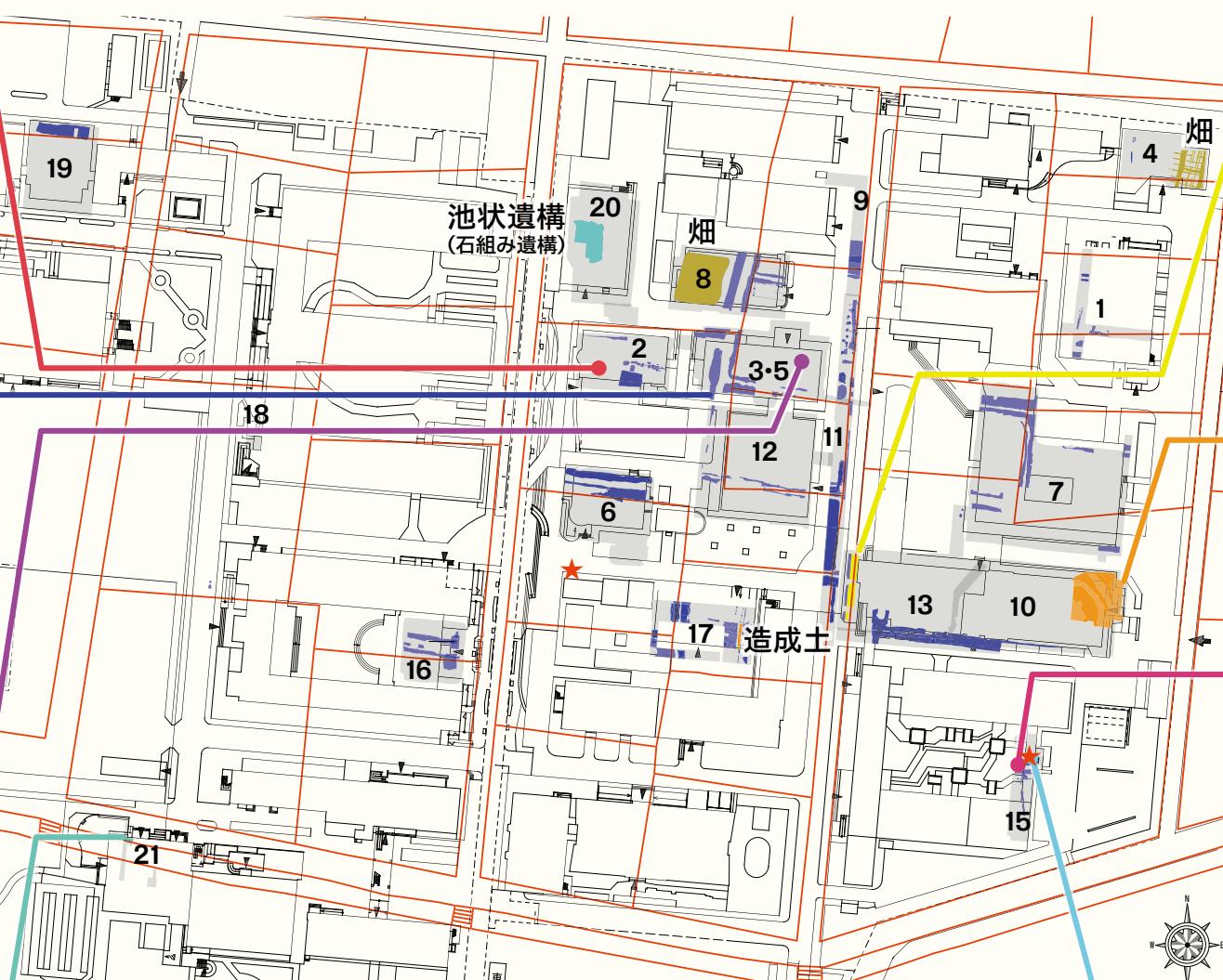
固くしまった帶状の面と溝。絵図との照合から、屋敷表の道路跡とみなせる。

造成土（17世紀前半）

徳島藩船置所移転後の造成工事跡。異なる種類の土が交互に盛られている。

素掘り舟入状遺構（17世紀前葉～中葉）

徳島藩船置所に所在した船着場。のちに、船置所は福島に移転した。



1. 工学部実習棟

2. 地域共同研究センター

3. 光応用工学科棟

4. 工業会館

5. 光応用工学科棟－追加

6. サテライト・ベンチャー・  
ビジネス・ラボラトリ

7. 機械工学科棟

8. 総合情報処理センター

9. 共同溝

10. 共通講義棟Ⅰ

11. 共同溝Ⅱ

12. 総合研究実験棟

13. 総合教育研究棟（共同講義棟  
II期）

15. 工学部実験研究棟

16. 総合科学部3号館

17. 工学部建設（総合研究）棟

18. 総合科学部1号館エレベーター

19. 地域連携プラザ

20. フロンティア研究センター

21. 地域創生・国際交流センター

\*番号は調査次数も兼ねる。

溝

発掘調査地点

安政年間（1854～1860）  
の屋敷地割

★ 遺跡解説板

0

100m

石組み舟入状遺構（17世紀後半～18世紀）

船置所移転後、私的な水運での利用目的で造られた船着場か。現地保存。